

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)	◎	一般小売店〔生花〕（経営者）	来客数の動き	・3か月前と比較するとクリスマス、正月、送別会やお供え花の注文が増加する時期でもあるため、景気は良い状況である。
	○	商店街（代表者）	販売量の動き	・来街者数と来客数は3か月前より増加しているが、20日を過ぎると落ち着いてきている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・気候も寒くなり、冬物衣料や家電を中心に少し需要が伸びている。
	○	商店街（代表者）	お客様の様子	・物価高で消費を控える傾向は強いが、行政の支援によるプレミアム付商品券の発行により売上は上昇している。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・当商店街は、当地の台所というキャッチフレーズで知られているが、日頃来店しない客でも年に1度は雰囲気を楽しむために来街する客がいる。
	○	一般小売店〔青果〕（店長）	単価の動き	・地物の野菜がかなり出回っていることで単価が下がり、気候の影響で鍋物関係の野菜が多く動いたため、客単価が上昇している。ギフト関係では当地の特産物であるポンカンを中心に前年の需要に対し100～120%になっている。
	○	一般小売店〔精肉〕（店員）	お客様の様子	・取引先が増えつつある。
	○	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	お客様の様子	・年末になり、今が1番忙しい時期である。注文が多く処理し切れない状態で、断ることが多くなっており、体調には気を付けている。このところ売上に伸びがなく、この繁忙期が稼ぎ時であるため、一丸となって取り組んでいる。
	○	百貨店（企画担当）	お客様の様子	・複数の売場を回遊し、また、購入した紙袋を多く持つ客が見受けられる。
	○	コンビニ（経営者）	単価の動き	・コンビニエンスストアのニーズの高い時間帯である朝、昼、夜のピークタイムは、来客数の増加が続いている。インバウンドの後押しもあり、食品、ドリンクだけでなく高級酒も売れており、客単価が上昇し売上は回復している。
	○	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・観光客の増加により、来客数が10%程度の増加になっている。
	○	家電量販店（従業員）	販売量の動き	・当地区においてもインバウンドの増加が目立っている。
	○	乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・新車の販売が、メーカーからの配給増加により順調に推移している。それにより、会社全体の売上と経常利益が伸びて好決算となる。
	○	その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	お客様の様子	・前年比で売上や来客数はほぼ変わらない。購入単価は若干前年より増加している。
	○	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	単価の動き	・原材料価格等の上昇を販売価格へ転嫁する動きに加え、インバウンド消費の伸長による影響で単価が上昇している。
	○	スナック（経営者）	来客数の動き	・クリスマスまでに、新型コロナウイルス感染症発生前の水準に戻っている。
	○	その他飲食の動向を把握できる者〔酒卸売〕（経理）	販売量の動き	・原価高騰は続いているが、販売価格への転嫁ができる環境にもなり、景況感は良くなっている。給与への反映も進んでおり、今後、更に景況感は良くなると期待している。
	○	観光型ホテル（総務）	来客数の動き	・人手不足のため、部分営業などで制限している。
	○	都市型ホテル（販売担当）	単価の動き	・売上と来客数が急激に増加している。
○	都市型ホテル（スタッフ）	競争相手の様子	・3か月前と比べて競合他社の稼働率も上がっており、単価も増加している。	
○	旅行代理店（職員）	単価の動き	・12月はクリスマスと年末が要因となり旅行単価が上昇している。	

○	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・年末年始のため、客が多く動くと思われる。
○	観光名所（職員）	来客数の動き	・市内の飲食店や観光客が訪れている土産店では貸切バスが増加しており、来客数が戻ってきている。
○	その他サービスの動向を把握できる者（所長）	お客様の様子	・客からの見積りの引き合いが増加している。
○	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・商品値上げ等で客の景気の状態が悪くなっているのではないかと予想していたが、若干良くなっている。
□	商店街（代表者）	来客数の動き	・気候の急激な冷え込みで、インフルエンザが流行しているため来客数が激減しており、3か月前と商況が異なり悪くなっている。
□	商店街（代表者）	販売量の動き	・12月は例年と比較すると師走のような慌ただしさはなく、11月のような例をみない状況である。
□	百貨店（企画担当）	販売量の動き	・3か月前と比較して国内客とインバウンドの比率は変化しているが、全体としては横ばいである。細かい点では、お歳暮やクリスマスといった小売業における特大ニーズは若干落ち込んでいるが、インバウンドによる購買がその分をカバーしている。
□	百貨店（経理担当）	販売量の動き	・食品催事等は好調であるが、生鮮食品の売上が落ち込んでいる。婦人衣料も回復傾向がみられるが、紳士・子供服関連が不調で、全体的に売上が伸び悩んでいる。
□	百貨店（営業担当）	単価の動き	・県内外の観光客、クルーズ船寄港が要因となり周辺商店街でも人出は増加している。クリスマスや年末商戦の本格化で来客数増の期待をしていたが、寒波の影響により平日の来客数は伸びず、購買客数は減少している。しかし、客単価と商品単価は上昇しており、ギフトセンターも土日祝と午前は混雑した状況である。お歳暮受注でも同様で1品単価は若干増加し、客単価も増加傾向になっている。おせちや福袋受注は店頭や通販共に好調で、正月用品の販売会場も盛況となっている。
□	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・コロナ禍で自粛されていた行動に制約が無くなり、人の動きが活発になっている。しかし、物価の上昇がブレーキとなり、年末年始の買物に影響しているため、購入に対する判断がかなりシビアに行われている。
□	百貨店（経営企画担当）	来客数の動き	・ギフト需要がピークを迎え、特選ブランドや化粧品が前年を上回り好調に推移したことに加えて、外商顧客向けの商材も動きが良い。
□	百貨店（営業企画担当）	単価の動き	・クリスマス商戦において、引き続き富裕層の高額品への消費意欲は高いものの、一般層のギフト商材は客単価の低迷が見受けられている。
□	スーパー（店長）	販売量の動き	・12月に入り、人の動向の変化が顕著である。来客数は前年並みで推移しているが、買上点数の減少が大きく、営業成果の指標となる数値へ影響を及ぼしている。物価高騰の影響が深刻である。
□	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・価格高騰の影響で来客数が前年を下回っており、客の財布のひもが固くなっている。
□	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・来客数は前年を下回っており、商品単価が相次ぐ値上げにより上昇していることで売上増加につながっているが、積極的な購買意欲によるものではない。
□	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・1品単価の前年比はやや高く、買上点数の減少を補っている。地域で見ると当市は好調を維持しているが、隣接市では全域にわたって大幅な減少傾向が続いている。
□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・ボーナス商戦やクリスマス商戦に大きな変化はなく横ばいである。
□	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・景気が良くなったとは考えられず、現在の悪い状況が継続すると予想される。
□	家電量販店（店員）	来客数の動き	・コロナ禍では巣籠り効果で売上は落ちていなかったが、新型コロナウイルス感染症の分類が5類へ移行した後は、それまでの反動で来客数が前年比で60%減の月もあり、厳しい状況となっている。

□	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・12月は年末ということもあり売上が微増しているが、景気が良くなっているとは考えられない。
□	乗用車販売店 (役員)	来客数の動き	・年末に向け来客数は落ち着いているが、販売では高水準な売上を維持している。
□	住関連専門店 (経営者)	それ以外	・円安で輸入商品が値上がりし、来客数も減少している。置き家具業界の景気はまだ厳しい。
□	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] (支配人)	お客様の様子	・3か月前と比較して、全館の推移は大きく変化していない。暖冬や物価の上昇など、外的要因に伴いアパレル店舗も苦戦している。シネマでは前年には人気映画が上映されたが、その反動で今年は厳しい推移となっており、現状は苦戦傾向である。
□	高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・年末が近づき人の出入りが多くなっているが、政情不安のため、地元の客は忘年会はするが予約は少ない。また、昼間の人通りは少なく、夜の宴会が若干ある程度で来年が心配である。
□	高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・12月は繁忙期となるため忙しかったが、例年と比較すると来客数が少ない平日の割合が多い状態である。
□	観光型ホテル (専務)	来客数の動き	・例年、正月前は売上が落ちるが、今年は落ちていない。
□	タクシー運転手	お客様の様子	・ここ数か月、県外からの人の動きが活発になっており今後に期待したい。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・国内外の観光客は変わらず好調で街全体が活気付いている。忘年会等で夜の繁華街も人出が多いが、新型コロナウイルス感染症の発生前ほどには回復していない。
□	通信会社 (役員)	お客様の様子	・低額プランへの契約変更の傾向が継続している。
□	ゴルフ場 (従業員)	来客数の動き	・天候次第ではあるが、今後も国内客の予約は堅調に推移すると予想される。
□	美容室 (経営者)	販売量の動き	・年末のため若干回復してくるとは考えられるが、美容業界では客の動きが弱く、なかなか景気回復が見込めず横ばいである。通常、年末年始は忙しいが、景気回復が遅れている。
□	美容室 (店長)	お客様の様子	・新年に向かって髪を整えるために来店するのではなく、定期的に来店する状況である。
□	その他サービスの動向を把握できる者 [介護サービス] (管理担当)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響は減少しているが、病院からの退院や新型コロナウイルスの新規感染者数の減少により顧客確保が伸び悩んでいる。
□	設計事務所 (所長)	単価の動き	・相変わらず材料単価や製品単価の上昇が続いている。また、入荷時期が未定の材料もある。それに比べて仕事に対する人件費は上がっていない。
▲	商店街 (代表者)	来客数の動き	・歳末商戦でイベント等をしているが、来街者数が少なく、客の財布のひもが固い状況である。
▲	一般小売店 [茶] (販売・事務)	お客様の様子	・年末であるが来客数は少なく、単価も低くまとめ買いもないため、1人当たりの購入金額が少ない。材料の仕入額が値上がりしており、利益は低下している。値上げすると客が更に減るため、厳しい状態が続いており危惧している。
▲	スーパー (店長)	販売量の動き	・1人当たりの販売点数の減少が続いており、可処分所得の減少が家計に響いていると考えられる。
▲	コンビニ (経営者)	来客数の動き	・商品の値上げが続く中、客の動向に変化があり、売上は多少増加している。クリスマス時期による動向にも変化があり、予約数は大幅な減少ではあったが、当日商品の値下げの実施後、購入する客が増加している。
▲	コンビニ (経営者)	販売量の動き	・客単価の伸びが止まっている。来客数はまだ前年を上回っているものの、目的買いが中心のコンビニエンスストアという形態では、来客数よりもついで買いがあるかが景気の動向をより忠実に反映すると考えている。最近までとは景気の動きが変わりつつあり、少なくとも良い状況になっている。
▲	衣料品専門店 (店員)	来客数の動き	・急な寒波の影響で、来客数が激減している。

	▲	家電量販店（店長）	お客様の様子	・電話通信事業法の改正の影響により、大きな駆け込み需要が発生している。来客数は増加しているが、家電商品を見る気配はなく家電販売には全く結び付いていない。
	▲	乗用車販売店（役員）	来客数の動き	・新型車の話題に対して来店する客は明らかに減少傾向にある。特に他社の客については堅調で、受注量の低下に不安感がある。
	▲	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・光回線の販売件数が低迷している。
	▲	設計事務所（代表）	来客数の動き	・集客に苦戦している。
	▲	住宅販売会社（代表）	来客数の動き	・来客数は物価高が原因で、動きがかなり鈍っている。住宅に関しては、買い控えで全く動きがない状況のため、販売棟数や売上は30～40%減少になっている。補助金に対する動きは多少の上昇傾向にある。
	×	住関連専門店（従業員）	単価の動き	・本来であれば高単価の秋冬商材の需要が高まるにもかかわらず、低迷している。一方、低価格帯が例年以上に引き合いがある。これは売上比率からも顕著で、節約志向がうかがえる。
企業 動向 関連 (九州)	◎	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・短期的ではあるが、主要取引先からの受注が好調である。
	○	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・予想していた鳥インフルエンザの被害が最小限にとどまっている。その影響もあり、12月の最需要期に要求された商品の90%は供給できている。12月の計画に対して達成できると予想され、特に量販店や居酒屋等の外食向けが好調に動いていることから、過去最高の売上を記録するのではないかと期待をしている。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先に発注された半導体の供給が徐々に軌道に乗ってきていることが予想され、それに伴い当社の動きもそれなりに良くなっている。
	○	電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・事業再構築補助金が採択され新しい取組への対応が開始されるが、実際の稼働は1年後のため、慎重に行う必要がある。資材の高騰や金利の上昇は継続していくと考えられ、投資の判断を正確かつ迅速に実施することが重要であると考えている。
	○	その他製造業 [産業廃棄物処理業]	取引先の様子	・生産量が増え、取引金額も上昇傾向にある。
	○	金融業（従業員）	取引先の様子	・住宅や家電の販売はやや弱含みながら、百貨店やスーパーマーケットに加え、自動車の売上が回復している。また、飲食店や旅館・ホテル等旅行・観光関連業種の売上も増加傾向である。
	○	金融業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の飲食業をはじめとするサービス業や物販業に関しては、12月のボーナス商戦やクリスマスは好調であり、具体的に売上が上がっていることが数字から見受けられる。そのため、今月の景気は全般的に良くなっている。また、資金需要についても、設備投資があり回復傾向にある。
	○	経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・企業が人材投資に積極的になっている。
	○	経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・買い控えは無くなり、価格上昇しても購買力は強く、以前より売上が高が増加している。現金よりカード支払が増えている。
		□	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き
	□	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・半導体製造装置関連の金属加工部品の受注が減っている。

	□	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・11月よりは荷動きが良くなっているが、12月は決算月の企業も多いことを考慮すると回復までは至っていない。円安傾向が緩んでいるが、輸入業者は国内の在庫がだぶついていることもあり、円高になったからといって輸入量を増やすつもりはなく、消費動向を注視しながら慎重に判断する会社が多い。中国経済の回復が鍵になることは変わらない。
	□	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・寒波到来により冬物商材が需要が多い影響で、年末に向け出荷量が増加している。例年、年末は同じ状況のため、特に景気が良くなっているとはいえないが、少なくとも景気が悪いということはない。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・ボーナス支給状況では、昨今の経済情勢から貯蓄志向が根強くなっており、消費を力強く押し上げるまでには至っていない。気温が下がり、冬物衣料や化粧品などに動きが出ている。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・経常運転資金を資金使途とした貸出金が減少している。特に2023年12月は前年比77%と減少しており、前年比の増減率の四半期前比較も50%と大きく減少している。一方で、法人の預金残高は増加していることから、景気は3か月前と比較して横ばいである。
	□	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・自社の受注状況には、余り変動がない。
	□	新聞社〔広告〕（担当者）	受注量や販売量の動き	・新聞広告の通販業種案件の申込みが少ない。
	□	広告代理店（従業員）	取引先の様子	・取引先のマインドとしては、3か月前と比べて余り変わらない。当社の業績としては3か月前との比較で季節要因のため微増となっているが、前年比では微減となるなど余り大きな変化はみられない。全体として3か月前と比べ大きな変化はみられない。
	□	経営コンサルタント（社員）	それ以外	・今月は、外部に向けての活動が皆無に近く、余り変化がない。
	□	その他サービス業〔物品リース〕（職員）	受注価格や販売価格の動き	・海外経済を中心に下振れリスク要因が多く、米国景気の大幅な悪化や中東情勢、ウクライナ情勢もあり資源価格の上昇が見込まれる。製造業等においては大きな変動はみられない。
	▲	繊維工業（営業担当）	競争相手の様子	・温暖化の影響もあり、冬物が売れずに受注が少ない。
	▲	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・手持ち工事もあり、技術者や作業員共に手が空いてはいないが、今の時期は新年度の繰越工事の発注やゼロ債等の発注がある良い時期であるが、全く発注される様子がないため心配しており、早期の発注を望んでいる。
	×	—	—	—
	◎	—	—	—
雇用 関連 (九州)	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・忘年会や年始会の発注が戻ってきている。新型コロナウイルス感染症発生前にはなかった企業からの直接の依頼も増えている。
	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・今月は様々な業界から求人依頼が多く、また、請求単価などの交渉にも応じてくれるところが多いため、条件面は幅広く募集したにもかかわらず案件が多かった。
	○	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・新型コロナウイルス感染症の分類が5類へ移行された後、景気が良い状態が続いていたが、最近では更に人出や消費活動が活発になっている。年末年始の飲食店の予約がなかなかできない状況である。
	○	学校〔大学〕（就職支援業務）	求人数の動き	・12月に入っても採用活動を継続している企業は多く、有効求人数も前年と比較するとかなり増加している。大学への企業来訪件数も増加しているが、2024年卒の目標人員に到達できず、採用活動に苦戦している企業が多くなっている。学生にとっては有利な状況であるが、企業や団体にとっては採用活動の長期化が進み、人材確保が大きな課題になっている。人手不足の状況は今後も予想され、求人の動きは緩やかではあるが、拡大傾向にあると予測している。

□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人件数や売上共に前年比80%程度で推移している。
□	新聞社〔求人広告〕（社員）	それ以外	・クリスマスや年末を迎えても、好景気とを感じる要因も実感もない。
□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数の全体数はほぼ変わらないものの、個人事業主の多い飲食店や建設関係の求人数が減少傾向である。
□	民間職業紹介機関（職員）	それ以外	・就活の解禁が3月であるが、今年は3年生の夏休みのインターンシップから企業が積極的に動いており、既に内定を出している企業も出始めている。1か月半くらい前倒しの状況となっており、それだけ人材市場は活況である。
□	学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・人手不足による求人数の増加はしばらく続くとみているが、仕事が増えている状況かどうかは不明である。
▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・インバウンドがますます増加しているが、それに伴い宿泊費や飲食店の値上げが続いている。当市内のホテルもインバウンドが多く、宿泊料が非常に値上がりしている。
×	—	—	—